

令和5年度 第6回臨時理事会

会 議 次 第

令和5年11月8日（水）午後1時00分

事務局共用会議室（日本パーティビル地下会議室）

1 開 会

2 議事録署名人の選出

3 審 議 事 項

第1号議案 「第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025 開催基本計画」
に関する承認について

4 そ の 他

5 閉 会

理 事 会
第 1 号 議 案

「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 開催基本計画」
に関する承認について

下記のとおり議案を提出する。

記

1 議案内容

「第 25 回夏季デフリンピック競技大会 東京 2025 開催基本計画」に
ついて、理事会の承認を求める。

令和 5 年 1 1 月 8 日

提 出 者 公益財団法人 東京都スポーツ文化事業団
理 事 長 塩 見 清 仁

提 案 理 由

定款第 3 0 条第 1 項の規定に基づき承認を求める。



第25回
夏季デフリンピック競技大会 東京2025
開催基本計画

一般財団法人全日本ろうあ連盟
東京都
公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

はじめに

01

大会ビジョン (1ページ)

- デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ
- 世界に、そして未来につながる大会へ
- “誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現

02

デフリンピック (2ページ)

- デフリンピックについて
- ICSDロゴ/デフリンピックマーク

03

大会概要 (3~4ページ)

- 名称/期間/参加国/参加者数/大会会場、施設
- 大会エンブレム

04

競技会場 (5~6ページ)

- 競技会場
- 競技会場図

05

デフリンピックを通してめざすもの (7~12ページ)

- みんなが つながる
- 未来へ つなぐ
- 世界の人々が 出会う
- みんなで 創る
- こどもたちが 夢をみる

06

みんなで大会を盛り上げる (13~16ページ)

- 大会の意義や魅力を伝える
- 共生社会について考える
- サポートの輪を広げる

07

大会運営体制 (17~19ページ)

- 運営体制
- リスク管理
- ガバナンスの確保
- 持続可能性
- 運営要員

08

大会運営 (20~25ページ)

- 競技
- デフリンピックスクエア
- 式典
- 広報
- 聴力検査
- 輸送
- アンチ・ドーピング
- 宿泊
- IDカード
- 飲食
- 医療サービス
- 会場警備
- 清掃/廃棄物

はじめに

デフリンピックは国際ろう者スポーツ委員会(ICSD:International Committee of Sports for the Deaf)が主催し、夏季と冬季それぞれ4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会である。

2022年9月9日、10日にオーストリア(ウィーン)で開かれたICSD総会において、一般財団法人全日本ろうあ連盟が2025年デフリンピックの開催地に立候補し、多くの支持を得て東京開催が正式決定した。

日本では初めての開催であり、また1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから100周年となる、歴史に残る大会である。

このたび、一般財団法人全日本ろうあ連盟、東京都及び公益財団法人東京都スポーツ文化事業団は、「開催基本計画」を策定した。

この計画は、2023年8月に公表した大会ビジョンに加え、競技や会場の運営など、大会を支える業務から構成され、大会開催に向けた必要な準備やサービスレベルの考え方を示したものである。

今後、この「開催基本計画」の考え方をもとに、具体的なサービスレベルや各業務の計画を作成し、大会の成功や大会後のレガシーの構築に向けて準備を確実に進めていく。

そして、この記念すべき大会の開催を契機に、デフリンピックやデフスポーツへの理解のすそ野を広げ、障害のあるなしに関わらず、共にスポーツを楽しみ、互いの違いを認め、尊重しあう共生社会づくりに貢献していく。

01 大会ビジョン

1

デフスポーツの魅力や価値を伝え、
人々や社会とつなぐ

- デフアスリートを主役に、最高のパフォーマンスを発揮できるよう大会準備を進め、その姿を通じて、本来、スポーツが持っている素晴らしさとともに、デフリンピックやデフスポーツの魅力や価値を発信し、普及・啓発に努める。
- また、あらゆる人が協働した大会運営や子どもたちの参画など、多様な視点を大切にしたい大会運営をめざす。

2

世界に、
そして未来につながる大会へ

- 大会を通じた手話言語の理解・普及・拡大など従来からの情報保障の推進・強化に加え、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発、社会への普及を促進する。
- このような取組を通して、国籍や障害のあるなしに関わらず、誰もが心を通わせることのできる街・東京の魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていく。

3

“誰もが個性を活かし力を発揮できる”
共生社会の実現

- 大会開催を機に、デフリンピック・ムーブメントとして、デフスポーツやろう者の文化への理解を促進し、障害のある人とない人とのコミュニケーションや心・情報・街のバリアフリーをさらに推進する。
- このムーブメントを通して、互いの違いを認め、尊重しあい、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会づくりに貢献する。

02 デフリンピック

デフリンピックについて

- ICSDが主催し、夏季と冬季それぞれ4年毎に開催されるデフアスリートを対象とした国際総合スポーツ競技大会である。
- 第1回は、1924年フランスのパリで開催された。
- 「デフリンピック」の名称は、2001年に国際オリンピック委員会(IOC)が承認した。
- 競技は一般の競技ルールに準拠するが、競技場に入った時点から、補聴器等の使用は禁止されることや、競技運営に国際手話のほか、スタートランプや旗などを利用した視覚による情報保障を用いることが特徴である。

最近の過去大会

夏季大会

2021 カシアス・ド・スル(ブラジル)
2017 サムスン(トルコ)
2013 ソフィア(ブルガリア)

冬季大会

2024 エルズルム(トルコ) ※開催予定
2019 ヴァルテッリーナ(イタリア)
2015 ハンティ・マンシースク(ロシア)

ICSDロゴ



手の形が「OK」「GOOD」「GREAT」を意味するサインが重ねられており、それはまた「デフリンピック」の手話単語を表している。さらに「結束」を表現している。

ロゴマークの中央は「目」を表しており、ろう者が視覚中心の生活を営んでいることを示している。また、赤色、青色、黄色、緑色はアジア太平洋、ヨーロッパ、全アメリカ、アフリカの4つの地域連合を表現している。

デフリンピックマーク



DEAFLYMPICS

「ICSDのロゴ」と「DEAFLYMPICS」の文字列を組み合わせたもの。

03 大会概要

名称

日	正式名称	第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
	略称	東京2025デフリンピック
英	正式名称	25th Summer Deaflympics Tokyo 2025
	略称	TOKYO 2025 DEAFLYMPICS

期間

2025年11月15日～26日(12日間)
開会式：11月15日 閉会式：11月26日

参加者数

各国選手団等：約6,000人
(選手約3,000人、ICSD役員・SD・審判・スタッフ約3,000人)

参加国

70～80か国・地域

大会会場、施設

競技会場、開閉会式会場(東京体育館)、
練習会場、デフリンピックスクエア等

03 大会概要

大会エンブレム

国内唯一の聴覚障害者、視覚障害者のための大学である、国立大学法人筑波技術大学の総合デザイン学科を中心とした産業技術学部の学生がエンブレムのデザイン案を複数制作し、ろう学校を含む都内中高生の投票により決定した。

コンセプト



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

- 人々の繋がりを意味する「輪」をテーマとした。
- デザインでは、デフコミュニティの代表的なシンボルである「手」を表し、デフリンピックを通して競技と話題に触れ、互いの交流やコミュニティが「輪」のように繋がった先には、新たな未来の花が咲いていくことを表現。花は桜の花弁をモチーフとした。
- デフアスリート同士の繋がり、観客や子どもたちとの繋がりなど様々な繋がりや輪をイメージし、子どもたちに楽しく描いてもらえるように1本の線で制作した。

04 競技会場

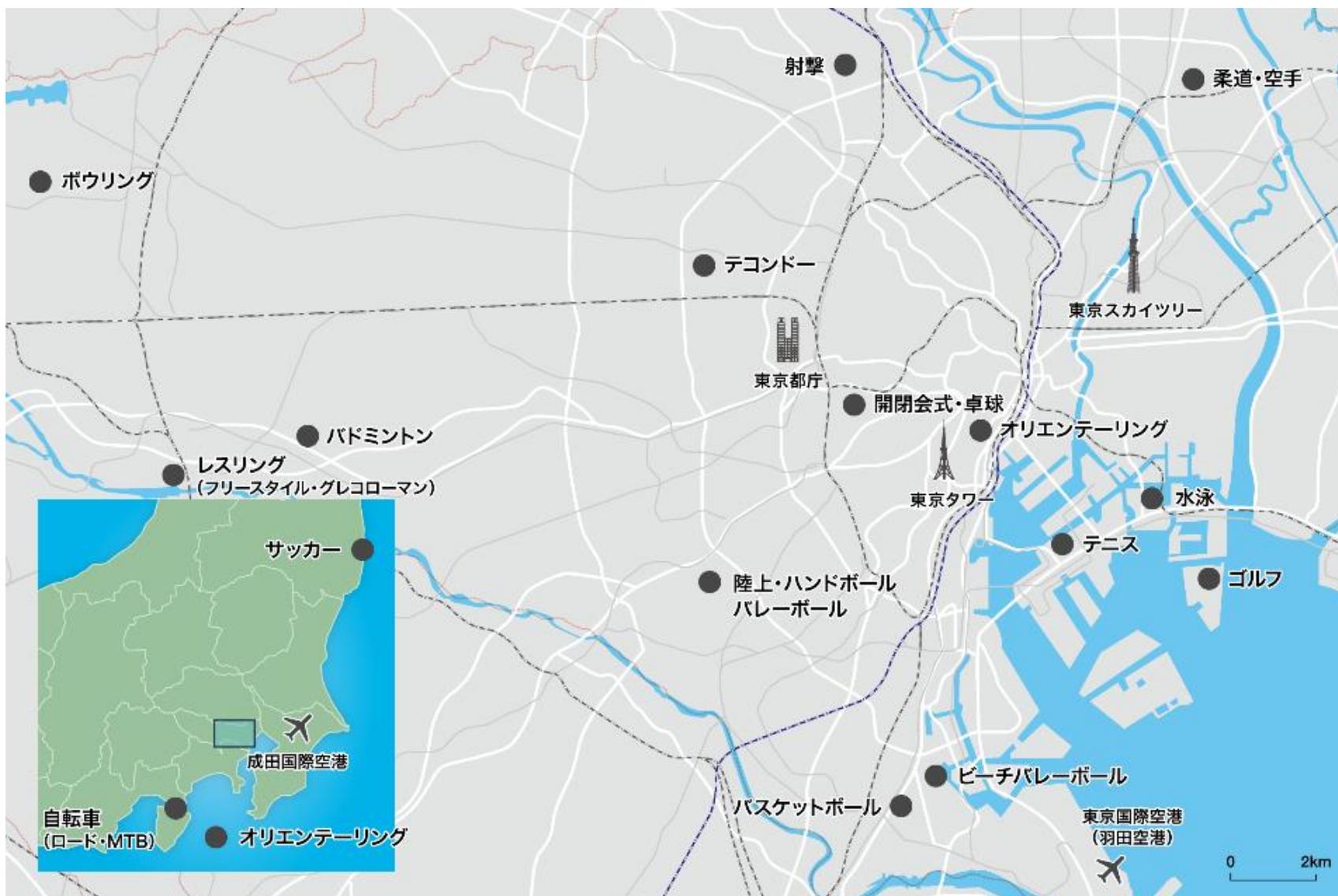
過去大会の出場者数や競技運営の実績を考慮し、大会に最適な会場を選定した。

	競技名	会場
1	陸上	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場 等
2	バドミントン	武蔵野の森総合スポーツプラザ
3	バスケットボール	大田区総合体育館
4	ビーチバレーボール	大森東水辺スポーツ広場
5	ボウリング	東大和グランドボウル
6	自転車(ロード)	日本サイクルスポーツセンター
7	自転車(MTB)	日本サイクルスポーツセンター
8	サッカー	Jヴィレッジ
9	ゴルフ	若洲ゴルフリンクス
10	ハンドボール	駒沢オリンピック公園総合運動場 屋内球技場
11	柔道	東京武道館

	競技名	会場
12	空手	東京武道館
13	オリエンテーリング	日比谷公園、伊豆大島
14	射撃	味の素ナショナルトレーニングセンター ・イースト
15	水泳	東京アクアティクスセンター
16	卓球	東京体育館
17	テコンドー	中野区立総合体育館
18	テニス	有明テニスの森
19	バレーボール	駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館
20	レスリング (フリースタイル)	府中市立総合体育館
21	レスリング (グレコローマン)	府中市立総合体育館

04 競技会場

競技会場図



05 デフリンピックを通してめざすもの

誰もがアスリートの活躍を間近で感じることができる。あらゆる人が参画・協働して一緒に大会を創る。「シンプルで心に残る大会」をめざし、この大会を、サステナブルなスポーツ大会のモデルとして、今後のスポーツ大会に活かしていきたい。

大会を通じて都がめざす姿をまとめた「ビジョン2025 スポーツが広げる新しいフィールド」を踏まえ、全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京の実現に貢献する。



05 デフリンピックを通してめざすもの

みんなが つながる

手話言語に対する理解の促進などに取り組むとともに、国籍や障害にかかわらず、スムーズなコミュニケーションを実現する様々なデジタル技術も活用して、「誰もが円滑につながる大会」を実現する。また、東京2020大会で使用された技術を活用することに加えて、大会を契機とした新たな技術開発や、大会における技術活用状況の発信などを通じて、ユニバーサルコミュニケーションを社会に浸透させていく。

情報保障やコミュニケーションの充実

- デフスポーツに必要なスタートランプなどの機器に加え、ビジョンやサイネージなどを活用する。
- 競技会場内の案内表示・掲示は誰もがわかりやすい表示とする。
- 東京2020大会で使用された多言語翻訳や音声文字化などのデジタル技術を活用するとともに、国際手話人材の育成にも取り組み、選手や関係者の円滑なコミュニケーションをサポートする。

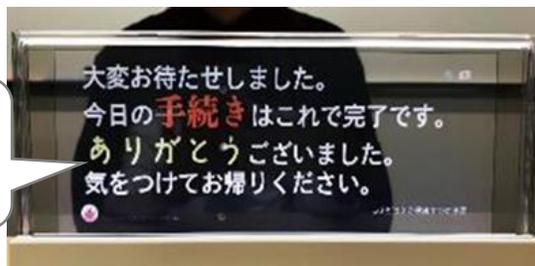
新しい技術の開発

- 最新技術の調査・発掘を行うとともに、民間事業者などと連携し、様々な機会を捉えて技術の実証を行う。
- スタートアップ企業との連携により、競技の音を擬音で表示するなど、「誰もが大会を楽しめる技術」の開発などに取り組む。

大会における技術活用状況などの発信

- 大会でデジタル技術を活用している様子を広く発信する。
- 選手同士の交流や、都民・国民が大会を体感できる拠点となる「デフリンピックスクエア」において、技術の展示やPRを行う。

音声を多言語で文字化するアプリや透明ディスプレイも活用して、円滑にコミュニケーション



競技の音を擬音で表示する技術などを活用し、誰もが大会を楽しめるように

05 デフリンピックを通してめざすもの

世界の人々が 出会う

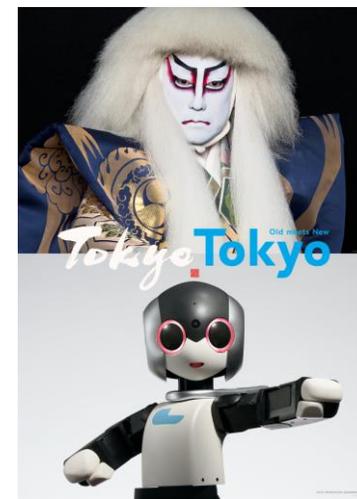
世界中から集まる選手や関係者などを、おもてなしの心でお迎えするとともに、芸術文化や食、観光資源など、東京の持つ多彩な魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていく。

様々なおもてなし

- 魅力あふれる多彩な競技施設や整備された交通網を活用するとともに、ボランティアによる手話言語対応も含めた心のこもったコミュニケーションなどにより、選手や関係者をお迎えする。
- 国籍や障害のあるなしに関わらず、あらゆる人に大会の持つメッセージを届けられるよう、発信の場面や手法などを工夫していく。

大会を彩る取組

- 大会を契機に日本を訪れるあらゆる人が楽しめる芸術文化の取組を展開し、共生社会に向けたメッセージを発信していく。
- 東京産の魅力あふれる食材を大会関連イベントで活用するなど、大会に関連した様々な場面で、東京の魅力をPRしていく。



05 デフリンピックを通してめざすもの

こどもたちが 夢をみる

子どもたちにデフスポーツの特徴や魅力を感じてもらおう取組を行うとともに、大会の一員として活躍する機会やデフアスリートと交流する機会を設けることにより、全ての子どもたちの学びや成長をサポートしていく。

大会を通じた学び

- 都内や被災地の子どもたちが、会場で熱戦を間近で観たり、デフアスリートと交流したりすることで、スポーツの素晴らしさや共生社会の大切さを学ぶ機会を設ける。
- デフアスリートが学校を訪問し、子どもたちと交流する機会や、大会関連イベントを通じてデフスポーツを体験する機会を設ける。

またとない経験を子どもたちに

- 大会の象徴となるエンブレムのデザイン選定や、選手入場時のエスコートキッズなど、子どもたちが大会にとって大切な役割を担う機会を設けることで、他では得られない経験を子どもたちに届け、その成長をサポートする。
- 大会関連イベントを通じて、選手へのメッセージを送るなど、子どもたちと一緒に大会を盛り上げる。



05 デフリンピックを通してめざすもの

未来へ つなぐ

デフスポーツやろう者の文化への理解促進、環境への配慮などに取り組むことで、「未来につながる大会」を実現する。

共生社会の大切さを学ぶ

- 大会に向けて、障害のあるなしに関わらず、一緒にスポーツを楽しむイベントの展開や、ろう者の文化への理解につながるハンドブックの作成などを通じて、人権や多様性について考える機会を設ける。

環境への配慮

- 既存施設や物品をできるだけ活用し、調達が必要な場合でもリースやレンタルを基本とするなど、脱炭素化と3Rの推進に努め、環境に配慮した大会運営を行う。



05 デフリンピックを通してめざすもの

みんなで 創る

当事者の目線を踏まえて大会計画を策定するとともに、ボランティアをはじめ、多くの都民・国民の理解と参画のもと、大会を創り上げていく。

様々な連携

- 多様な視点や当事者の目線を計画に反映できるよう、デフアスリートなどとともに大会の計画を考えていく。
- 大会の準備運営にあたっては、国内・都県の競技団体や関係自治体と効果的に連携していく。

多様な人々の参画

- 障害のあるなしや年齢などに関わらず、多様な人々がボランティアとして活躍できる機会を設けることで、東京2020大会を通じて広がったボランティア文化をさらに根付かせていく。
- 大会を支える人々の努力や、ろう者が社会で活躍する姿などをウェブサイトで発信する。
- エンブレムの作成や「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」など、当事者の協力も得ながら大会の気運醸成に取り組んでいく。



06 みんなで大会を盛り上げる

デフスポーツへの理解のすそ野を広げ、障害のあるなしに関わらず、共にスポーツを楽しみ、互いの違いを認め、尊重しあう共生社会づくりに貢献していく。

デフリンピックのこうした意義をあらゆる機会を捉えて都民・国民に発信するとともに、大会の開催気運を盛り上げていくため、様々な取組を展開していく。



06 みんなで大会を盛り上げる

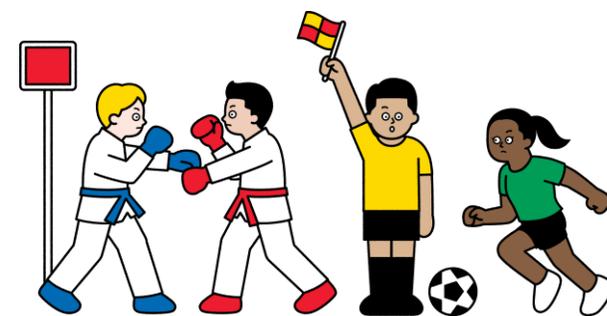
大会の意義や魅力を伝える

多くの都民・国民に大会に参画してもらえよう、デフリンピックの歴史や特徴、魅力などをわかりやすく伝えるとともに、大会への関心を高める取組を幅広く展開していく。

また、大会の持つメッセージなどを効果的に発信するため、同じく2025年に東京で開催される世界陸上競技選手権大会とも、相乗効果を発揮しながら取り組んでいく。

「デフリンピック」を伝える

- ・ デフスポーツやろう者の活躍などについて知るきっかけをつくり、デフリンピックへの興味・関心を高めてもらえるよう、訴求力のあるホームページやSNSなどを通じ、広く発信する。
- ・ デフスポーツや手話言語に理解のある人や発信力のある人を「東京2025デフリンピック応援アンバサダー」として起用し、大会の意義や魅力、スポーツの素晴らしさなどを積極的に伝えていく。
- ・ 大会エンブレムを用いた様々な広報PRツールを活用し、大会の意義や魅力を効果的に発信していく。



イラストを活用した特設ホームページ

効果的な発信

- ・ 大会への注目度が高まる開催1年前の節目などの機会を捉えて、区市町村などとも連携しながら、様々な広報や気運醸成イベントなどを展開する。
- ・ デフアスリートと子どもたちとの交流、デフリンピックの競技体験など、実際に大会の特徴や魅力を感じられる取組を実施する。



長濱ねる



川俣郁美



KIKI

東京2025デフリンピック応援アンバサダー

06 みんなで大会を盛り上げる

共生社会について考える

大会を通じてデフスポーツやろう者の文化への理解を促進させ、障害のあるなしや年齢などに関わらず、誰もが互いの違いを認め、尊重しあう社会への歩みを進めていく。

ろう者の文化を身近に

- デフアスリートの活躍や、ろう者の社会活動の様子などをホームページで紹介することで、ろう者の文化を身近に感じてもらい、共生社会について考えを深めるきっかけとする。
- 子どもを含めた幅広い世代が手話言語に親しみを持てるよう、手話単語を簡単に学べる動画や、手話言語やデフリンピックをテーマとしたハンドブックを制作し、各種イベントなど、様々な機会に活用・発信していく。

芸術文化を通じた発信

- 大会を契機に日本を訪れるあらゆる人が楽しめる芸術文化の取組を展開し、共生社会に向けたメッセージを発信していく。



06 みんなで大会を盛り上げる

サポートの輪を広げる

大会の成功に向け、関係団体や区市町村などと連携した取組を展開するとともに、より多くの人々が参画し、みんなで力をあわせて大会を創っていくための仕組みづくりを進めていく。

様々な連携

- 大会の準備運営にあたっては、国内や都県の競技団体などとも連携していく。
- 区市町村が主催するスポーツイベントにおける大会PRなど、自治体と連携した取組を展開していく。
- 地域当事者団体とも協力・連携するなど、サポートの輪を広げていく。

多くの人々が参画する仕組みづくり

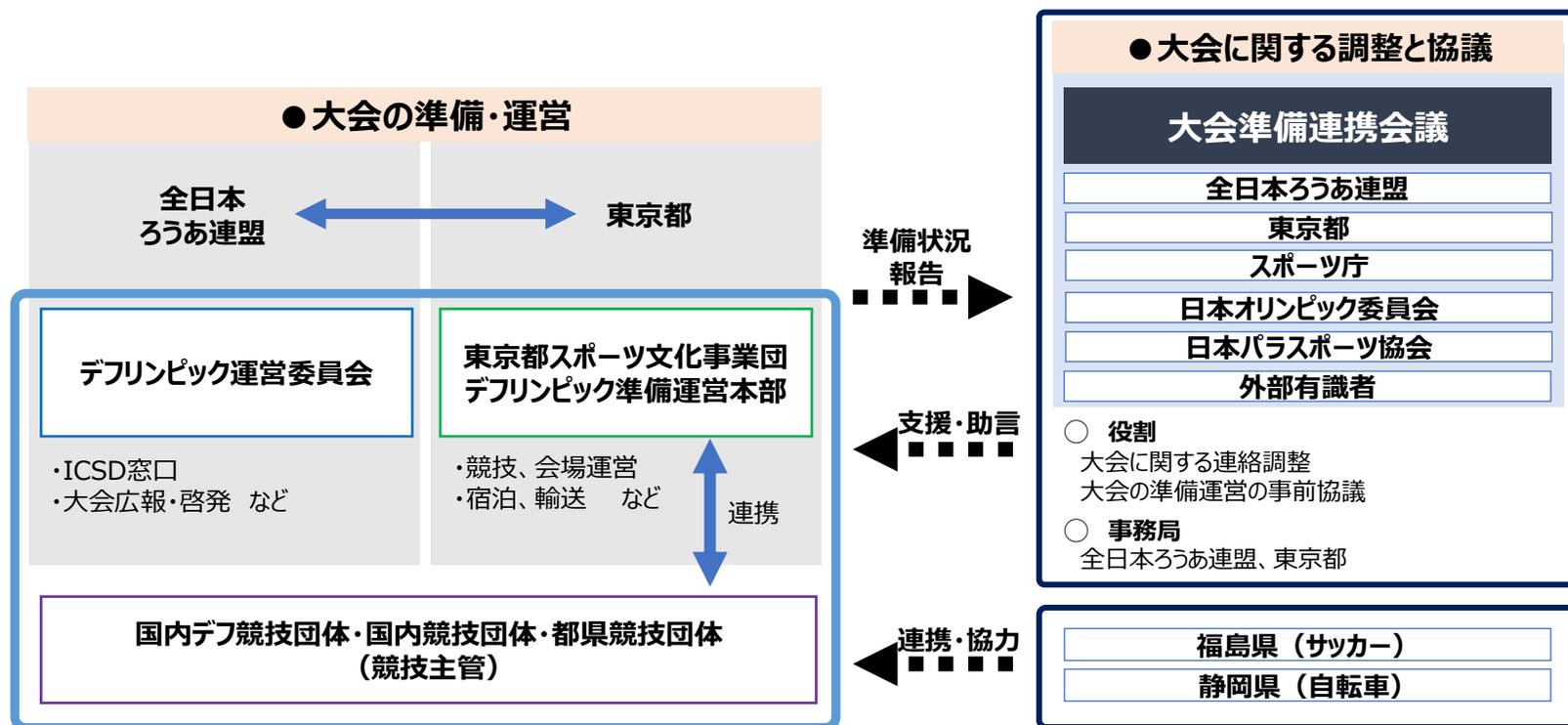
- 企業などのサポートを得て、デフリンピックの魅力を広めていく。
- 寄附やクラウドファンディングなど、多くの方々が参画しやすい仕組みづくりを進めていく。



07 大会運営体制

運営体制

- 全日本ろうあ連盟と東京都は協定を締結し、大会準備運営に係る業務を分担する。
- この分担に基づく業務を遂行するため、大会開催に係る国際ろう者スポーツ委員会(ICSD)の窓口などを担う組織を全日本ろうあ連盟の内部に設置。競技、会場運営などの運営実務は東京都スポーツ文化事業団が担う。
- 大会の経験やノウハウをレガシーとして継承し、さらなるスポーツ振興に貢献していく。



07 大会運営体制

ガバナンスの確保

デフリンピックが都民・国民に心から歓迎されるものとするため、「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」及び「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を踏まえて適切なガバナンス体制を確保し、スポーツのフェアネスを体現した組織を構築する。

▶ 役員等の適切な選任

役員等の資質や役割、外部理事等の目標割合を定めた役員選任方針を策定するとともに、役員等が組織運営における職責や関係法令等を認識するような役員行動規範を策定し、誓約書を徴取する。

▶ 内部統制・外部チェック

契約・調達の適正性等をチェックする契約・調達管理会議を設置するとともに、内部監査部門と監事・会計監査人が連携した「三様監査体制」を構築する。

▶ 情報公開

ホームページ等において、法定事項のみならず大会運営に関する様々な情報を積極的に公表するとともに、東京都の条例に準じた情報公開制度を整備し、適切に運用する。

▶ コンプライアンスの確保

外部有識者を含むコンプライアンス委員会の設置や内部及び外部通報窓口の設置等の体制整備を行うとともに、コンプライアンスに係る知識の習得や意識啓発のため、役職員へ継続的にコンプライアンス教育を実施する。

▶ 利益相反の管理

利益相反取引を適切に管理するための規程を制定するとともに、役職員に利益相反取引に係る自己申告書やチェックシートを提出させるなど、利益相反該当性を適切にチェックできる仕組みを構築する。

07 大会運営体制

運営要員

大会運営に携わる人材の確保・配置等を計画的に行い、大会を成功に導くことのできる体制を構築する。

- ・ 職員や競技運営スタッフ、手話言語通訳、ボランティアなど多様な人材により運営する。
- ・ 特にボランティアについては、東京2020大会のレガシーも活用し、様々な場面で活動機会を提供する。
- ・ 大会運営に必要な知識・能力などを身に付けられるよう、手話言語をはじめとした実践的な研修を実施する。

リスク管理

危機管理体制の構築及び危機発生時に適切に対応する。

- ・ 大会準備期間、大会本番時も含めた危機管理体制を関係者で組織し、危機発生時は、関係者で協議の上、合意のもと措置を講ずるものとする。

持続可能性

大会を計画、運営するにあたり、持続可能性に配慮したスポーツ大会の実現を目指す。

- ・ 物品等の調達に当たっては、可能な限りリースやレンタルを活用し、購入する場合は、環境への負荷ができるだけ少ないものを選択して購入することとする。
- ・ 障害のある人となない人のコミュニケーションや情報バリアフリーを推進し、共生社会の実現に貢献する。

競技

あらゆる人が協働した大会運営をめざすため、国内デフ競技団体(NDF)はもとより、国内競技連盟(NF)など、国内の各競技団体から協力を得ながら連携体制を構築し、協議の上、競技を運営していく。

▶ 競技運営体制

各競技の競技運営責任者(スポーツリエゾンオフィサー)を配置し、ICSDのSD(スポーツディレクター)との連携、協働が円滑に行える運営体制を整える。

▶ 競技エントリー

競技エントリーの受付はICSDが行う。2023年5月に団体競技の予備登録を受け付けており、各競技種目の出場選手数を記入した予備登録は大会の1年以上前にICSDに提出する。

▶ 競技種目

各競技で実施する種目は、2024年5月頃にICSD執行委員会の承認を受け、決定予定。

▶ 競技関連用具

競技運営に必要な用具の種類や数量を把握し、競技関連用具(情報保障機器も含む)を確保する。

なお、各競技における視覚情報保障機器(例:陸上、水泳のスタートランプなど)の基準や規格等について、SDと協議する。

▶ 選手団向け大会サービスガイド

大会の1年前に開催する選手団長セミナーにあわせ、大会情報等を網羅した選手団向け大会サービスガイドを作成し、選手団長に提供する。

▶ 競技結果報告書

大会終了後に、大会記録リストの競技種目と分類レベルにあわせて、全予選及び決勝の結果に関する競技結果報告書を発行する。

▶ リザルト関係

各競技会場において、選手や観客のために、得点掲示板、計時・計測や判定結果等の情報が視覚的に得られる機器を導入し、各競技会場に設置する。また、大会ホームページ等を通じて、競技会場外においても競技結果を確認できるよう、情報を提供する。

08 大会運営

式典

大会のセレモニーを通じて、東京2025デフリンピックならではの体験を得られる機会を提供するとともに、世界中の様々な人々にデフリンピックの魅力を広く発信する。

- 東京2025デフリンピックらしさを反映させたセレモニーを執り行う。
- 開閉会式においては、大会ビジョンを反映させた演出内容とし、デフリンピックの魅力や価値を伝え、共生社会の実現につながる式典とする。
- 表彰式においては、東京2025デフリンピックらしい創意工夫を凝らすことにより、入賞者の功績を称えるのにふさわしい雰囲気を出創する。

聴力検査

聴力検査の実実施計画を策定し、聴力検査を実施する。

- 関係機関と協力体制を構築し、ICSDの方針を踏まえ、聴力検査の実実施計画を策定する。
- 聴力検査に必要な人員や場所、検査機器等を確保する。
- 情報保障に配慮し、適切かつ円滑に聴力検査を実施する。

アンチ・ドーピング

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(JADA)等と連携し、ドーピングコントロールを実施する。

- ICSDの方針を踏まえ、JADAをはじめ、関係機関と連携の上、ドーピングコントロールの運用計画を策定する。
- ドーピングコントロールに必要な人員や場所を確保する。
- 情報保障に配慮し、適切かつ円滑にドーピングコントロールを展開する。

08 大会運営

IDカード

大会運営を円滑にするために、選手団及び大会関係者にIDカードを発行する。

- IDカードには大会運営に必要な身分証明等の情報を含んだものを発行する。
- 個々の大会関係者の情報を確認し、競技会場等で必要となるアクセス権をそれぞれ付与する。
- IDカード登録申請の手続から発行までを、円滑な方法で実施する。

デフリンピックスクエア

大会期間中、選手が各種サービスの提供を受けられるとともに、選手同士の交流などができる拠点として、デフリンピックスクエアを設置する。

- 団長会議の開催や文化体験、交流コーナーなど、選手団向けのサポートを行う。
- メディア向けの大会情報の発信拠点としてサービス提供を行う。
- 選手団及び大会関係者に対して提供する輸送や宿泊サービスを統括する機能などを設置する。
- 子どもたちを含めた都民・国民がデフリンピックを体感できるような機会を提供する場の設置を検討する。

広報

デフリンピックの感動や素晴らしさを伝えられるよう、国内外に向けて大会の状況を適宜発信するとともに、メディアに対して競技結果などの必要な情報を提供し、報道活動を支援していく。

- 各競技の映像等をオンラインで視聴できる環境を整備する。
- 大会運営状況や競技結果等を提供する記者会見等を実施する。
- メディアが必要な情報を随時収集できる場を設置するとともに、各競技会場においても取材活動に資する環境を整備する。

08 大会運営

輸送

選手団及び大会関係者に対して、安全、円滑、確実な輸送サービスを提供する。

- 安全かつ円滑な輸送体制を確保し、アスリートの負担を軽減する。
- 宿泊施設から競技会場まで、概ね1時間以内での輸送サービスを提供する。
- 競技の特性や輸送対象に応じて、適切な輸送サービスを提供する。

宿泊

選手団及び大会関係者に対して、競技に集中できる宿泊サービスを手配する。

- 競技会場まで概ね1時間以内にアクセスできる場所に宿泊施設を設置する。
- 各国選手団のニーズに応じて、適切な宿泊施設を複数用意し、それぞれ適正な価格にて提供する。
- 宿泊時に円滑なコミュニケーションを取れるよう、情報保障に配慮する。

飲食

大会期間において、参加する選手団等が適切に食事ができるよう支援する。

- 必要に応じて、宿泊施設や競技会場周辺の飲食施設等の情報提供を行う。
- 適切に水分補給ができるよう、競技会場及び練習会場において飲料の提供方法を検討する。
- 宿泊施設においては、多様な食文化等に配慮した飲食や情報提供に努める。

08 大会運営

医療サービス

大会期間中の選手等の傷病発生に速やかに対処するため、必要な救護体制を整える。

- 体系的な医療サービスの提供に向けた基本方針や計画を策定する。
- 救急当局や医療機関等と事前に十分な連絡調整を行い、情報保障に配慮した救護体制を構築する。
- 競技会場等に救護所を設置し、負傷者や急病人が出た際に救護を行う。また、必要な場合に、医療サービス提供を支援する。
- 保健衛生の基本的な対策を講じ、安全な公衆衛生環境の確保に努めるとともに、公衆衛生情報を適切に提供する。
- 選手等に、日本での医療に関する情報を適切に提供する(外国人患者の受入医療機関及び受診方法等に係る情報提供)。

会場警備

競技会場内において、施設所有者等と連携し、安全・安心な大会運営を提供する。

- 会場ごとのリスクに応じて、施設所有者等と連携し、選手や観客の安全を守るための効果的な警備を行う。
- 必要に応じて、手荷物検査等を実施する。

清掃/廃棄物

施設所有者等と連携し、大会運営のために必要な清掃を実施する。また、大会運営で発生した廃棄物を効果的、効率的に処理する。

- 大会運営に支障がないよう、競技会場及び練習会場を清潔に保つ。
- 廃棄物については、可能な限り、抑制(リデュース)、再使用(リユース)及び再利用(リサイクル)に取り組むなど、適正な処理を行うように努める。ごみの分別・処理は各自治体のルールに則して実施する。



TOKYO 2025
25TH SUMMER DEAFLYMPICS

● 都の気運醸成に関する大会2年前の取組

日本初開催「東京2025デフリンピック」まであと2年！

きこえないスタッフと、デジタル技術を活用した新しいコミュニケーションを体験
『みるカフェ』が11月15日（水）から原宿に期間限定オープン！

店内には手話アートの展示や、過去のデフリンピック映像も放映

2年後の2025年11月15日～26日、デフアスリートの国際スポーツ大会であるデフリンピックが、日本で初めて開催されます。東京都では、デフリンピックへの関心を高めていくため、さまざまな取組を行っています。

このたび、2年前の機を捉え、若年層が集まり、新しい文化の発信地である原宿のカフェにおいて、デジタル技術を活用して言語を“見える”化し、きこえる・きこえないに関わらず誰もがつながることができるコンセプトカフェ『みるカフェ』を、大会開催期間に合わせた11月15日（水）～26日（日）の期間限定でオープンします。



1 『みるカフェ』について

『みるカフェ』は、音声などの言語を文字に変えて“見える”化する技術を活用し、きこえる・きこえないに関わらず、誰もが快適にコミュニケーションできる環境づくり、そしてその体験を通して共生社会への理解を促すことを目的としたコンセプトカフェです。カフェでは、入店から注文、スタッフとの交流、会計まで、デジタル技術を活用し、聴覚障害者（きこえないスタッフ）と円滑なコミュニケーションを図ることができます。

カフェでは、音声又はキーボードで入力した内容を透明ディスプレイ上に表示できる技術や、スマートフォンやタブレット上で音声のテキスト変換、手書き文字の表示が可能な技術、手話をテキストに変換する技術などのデジタル技術を通して、きこえないスタッフを含む店舗スタッフとのコミュニケーションを体験いただけます。

また店内では、門秀彦さん※による『TALKING HANDS』というコンセプトで手話をモチーフにしたポップアートの展示や、過去のデフリンピック映像の放映、触ってわかるデフエンブレムモニュメント、手話絵本の展示などを行い、デフの世界に触れるきっかけとなる情報を多面的に発信していきます。

※門秀彦(かどひでひこ):ろう者の両親をもち、音声言語や手話では伝えきれない思いを表現するため、

幼少期から絵を描き始める。手話をモチーフにした手話アート作品を数多く発表しており、アニメーション、

お菓子のパッケージ、飲食店の店内アート、ホテルルームプロデュースを手掛けるなど活動が多岐に渡る。



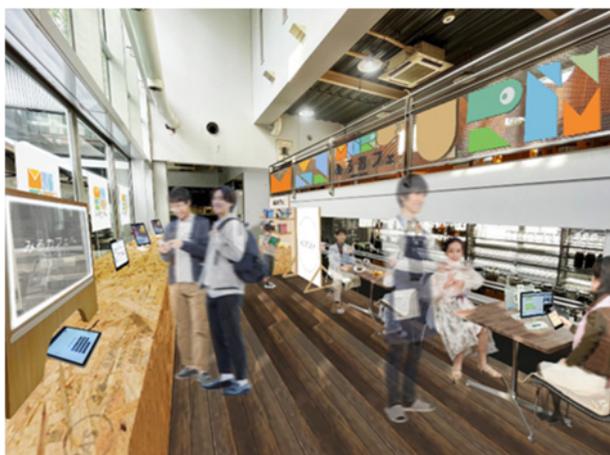
2 実施概要

■ 実施期間: 2023年11月15日(水)~26日(日)

■ 営業時間: 11:00~20:00

■ 場 所: ECO FARM CAFE 632

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6丁目32-10 ピアザアネックス 1F



店内ではデジタル技術を通じてきこえないスタッフとのコミュニケーションを体験できる



門秀彦さんの手話アートがポップに彩る店内

3 カフェで体験できる主なデジタル技術

KIKI



フォトリアルな手話 CG アバター。来店された方へ手話でメッセージを届ける。東京 2025 デフリンピック応援アンバサダー。

音声翻訳表示ディスプレイ(TOPPAN 株式会社ほか)



音声又はキーボードで入力した内容を透明ディスプレイ上に表示し、対面コミュニケーションを可能に。多言語翻訳も可能。

こえとら・SpeechCanvas (株式会社フィート)



スマホまたはタブレット上で音声をテキスト変換するほか、手書き文字も表示できる。

Ontenna (オンテナ) (富士通株式会社)



髪の毛や耳たぶ、えり元やそで口などに身に付け、振動と光によって音の特徴をからだで感じるデバイス。

SureTalk

(国立大学法人電気通信大学・ソフトバンク株式会社)



手話と音声による双方向コミュニケーションシステム

Hapbeat (Hapbeat 合同会社)



競技音や観客の歓声などの音を振動に変換し、音の方向、強弱、リズムなどを「体で感じられる」デバイス。

4 その他の取組

■ 都庁舎ライトアップ

11月15日(水)～26日(日) 17:00～19:00に、デフリンピックのロゴをイメージした赤・青・黄・緑の4色にライトアップします。

